

## 東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2019年12月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

### 1. 概況

- ドミニカ総選挙は、直前の抗議活動による混乱があったものの、無事に実施され、与党側が大勝した。各選挙監視団も概ね自由、公正な選挙と評価した。スケリット首相は、選挙改革を優先課題として行うと約束。
- 投資による市民権のための投資プログラムの不正運用の指摘に対し、グレナダは反論する一方、旅券の売買疑惑については捜査を開始した。
- ゴンザルベス・セントビンセント首相は、アルマグロ米州機構（OAS）事務総長の再選阻止のため、エクアドルのエスピノサ氏を擁立に動いた。

### 2. 内政

- 4日付セントキッツ紙は、3日ブランドリー・ネイビス島政府首相は2億3,970万東カリブドルの20年度予算案を発表し、19年度より11%縮小し、新規増税はない、強靭性を構築し、インフラを改善し、経済成長への調和の取れた取り組みを行うと述べたと報道。
- 4日、グレナダ政府は、アルジャジーラの投資による市民権（CBI）プログラムに関する特集に関して、CBIや外交旅券発行に関する批判は全く事実に反する、グレナダのCBIはIMF、世銀等から高い評価を受けていると反論した。11日付グレナダ紙は、警察はグレナダの旅券が違法に販売（一般旅券で250東カリブドルと言われる）されているという噂への捜査を開始したと報道。
- 4日付地域紙は、ドミニカ高裁は、市民団体からの選挙改革が必要としての総選挙の中止請求を却下した、国内では選挙改革を求める抗議活動が過激化し、空港への道路が封鎖され、航空便の運行に影響が出ている、スケリット首相は野党側が抗議活動を扇動していると述べたと報道。4日付ドミニカ紙は、サバリン大統領は暴力的抗議活動を批判したと報道。5日付ドミニカ紙は、カリブ地域安全保障システムは、ドミニカ当局の要請を受けて、加盟国6カ国から治安部隊を派遣した、東カリブ最高裁は総選挙中止請求を却下したと報道。
- 6日、ドミニカで総選挙が実施され、与党ドミニカ労働党が21議席中3議席増の18議席を獲得し勝利を収めた。スケリット首相は、自由、公正な選挙の勝利と強調し、100日以内に選挙改革に取り組むと声明した。英連邦、カリコム

及び米州機構からの選挙監視団も選挙は概ね自由、公正に行われたと評価した。リントン野党党首は選挙に不正があったと批判した。(7日付報道等) 16日付同国紙は、リントン党首は選挙の無効訴訟を起こすと述べたと報道。

●9日付ドミニカ紙は、スケリット首相が5期目の首相として正式に就任したと報道。17日には18閣僚の就任宣誓式が行われ、外務大臣にはダルー新大臣が就任した。

●10日付アンティグア紙は、中国は税関が不正貿易、違法薬物や武器密輸をより効果的に防止するために500万米ドル相当の監視技術を寄贈したと報道。

●10日付グレナダ紙は、ギャラウェイ防災担当大臣は報道記者に暴行を行い、起訴されたと報道。

●19日付ドミニカ紙は、政府は、選挙改革委員長にバイロン元カリブ司法裁判所長官を任命した、スケリット首相は、付託事項は年明けに発表し、事務局も設置する、野党も新たな国家建設に協力してほしいと述べたと報道。

### 3. 経済

●10日付グレナダ紙は、9日、グリーン外務大臣は中国大使との間で、クリケット競技場改修等支援のため3,840万東カリブドルの中国の無償資金協力を署名したと報道。

●12日、カリブ開発銀行(CDB)は、セントビンセントのキングスタウン港に新たな貨物ターミナルの建設、アクセス道路の改修等の港改修のための支援を承認した、CDB借款が1.1億米ドル、CDB管理の英国インフラ基金から3,200万米ドルの無償、セントビンセント政府が4,300万米ドル負担すると発表。

●12日、セントキッツ政府は、ハリス首相が8.49億東カリブドルの20年度予算案を発表し、同首相は強靱で安全な未来を作るための予算と強調したと発表。12日付同国紙は、ハリス首相は、予算発表の中でカリブ地域最大の太陽光発電及びエネルギー貯蔵プロジェクト契約をスイスのルクランシェ社と締結したと述べたと報道。16日付同国紙は、19年の経済成長率予測は2.9%、20~22年は3.6%と報じる。

●17日付トリニダード紙は、シャスネ・セントルシア首相は、セントルシアでリゾート開発実施中のデザート・スター社との協議で北京を訪問したと報道。

●17日、セントキッツ出張中の平山大使は、ブラントリー・ネービス島政府首相(セントキッツ外務大臣)立ち会いの下、ネービス島災害管理局に対して防災機能向上のため16万米ドル強を供与する草の根・人間の安全保障無償資金協力を署名した。

●17日、OECS事務局は、OECS諸国の農業専門家は、農業技術及び輸出

市場拡大の能力を強化するためモロッコを訪問したと発表。また、同事務局は世銀がグレナダに対し強靱性あるブルーエコノミーへの移行支援に2千万米ドルの借款を承認したと発表。

●18日付セントキッツ紙は、グラント観光大臣は20年度予算審議で、同国観光産業のGDPへの貢献額は6億3,450万米ドル、GDP全体の62.4%を占める、雇用者数も全体の約60%を占める重要産業と述べたと報道。

●20日付アンティグア紙は、カリブ開発銀行は、英国の支援により、バーブーダ島の電線の地下化、太陽光電源の導入等を行う1千万東カリブドルの無償協力を承認したと報道。

●30日付グレナダ紙は、世銀のビジネス環境改善度のランクで、セントルシア（93位）を除く東カリブ諸国は100位内にも入れず、遅れをとっていると報道。

#### 4. 外交

●3日付アンティグア紙は、1日西インド諸島大学（UWI）アンティグア校でUWIでは3つめとなる孔子学院開設式が行われ、ウィリアムス総督、ブラウン教育大臣、中国大使等が出席したと報道。

●3日、OECS事務局は、4～5日セントルシアで保健大臣会合を開催し、非感染性疾患、医療サービスへの公平なアクセス、戦略的統治のための情報発信、強靱性強化のための長期的投資等を協議すると発表。

●7日付セントキッツ紙は、6日セントキッツとボスニア・ヘルツェゴビナは外交関係を樹立したと報道。

●10日付アンティグア紙は、ブラウン首相はバコウ・ハーバード大学学長に西インド諸島大学アンティグア校とハーバード大学の協力取決めを打診したところ、バコウ学長から前向きな回答を受けたと述べたと報道。

●11日付セントビンセント紙は、セントビンセントとナミビアは外交関係を樹立したと報道。

●11日付ドミニカ紙は、ゴンザルベス・セントビンセント首相はアルマグロ米州機構（OAS）事務総長の再選に反対する、既にカリコム首脳に反対を呼びかけたと述べたと報道。15日付ガイアナ紙は、アンティグア及びセントビンセントは、同次期事務総長候補にエクアドルのエスピノサ氏を擁立したと報道。

●12日付セントルシア紙は、セントルシアはヨルダンでの国際航空交渉会合の際にア首連との間で航空協定を署名したと報道。

●15日付アンティグア紙は、19年度に米国から送還されたカリブ諸国民は5,379人で、うち東カリブ6カ国民は93人と報道。

●16日付セントビンセント紙は、14日、ゴンザルベス首相はキューバで開催

された第17回米州ボリバル同盟首脳会合に出席したと報道。

- 19日、セントルシア政府は、シャスネ首相はカナダ訪問中にトルドー首相と会談し、気候変動、小島嶼国の問題、両国間の金融サービス強化の可能性等につき協議したと発表。
- 22日付ドミニカ紙は、7保健地区において中国の医療専門家が無料医療サービスを実施したと報道。
- 30日付トリニダード紙は、カリブ地域で休暇中のジョンソン英首相は、セントルシアでシャスネ首相と会い、シャスネ首相は英国の支援に謝意を述べると共に、次回は長めの訪問を期待すると述べたと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。